

2018年度	
学科名	専攻科
専攻名	芸術専攻

建学の精神		専攻科のディプロマ・ポリシー	
髪、顔、装い、精神美、健康美の五大原則に基く「美道」の追求・実践		専攻科は、次の2つの実践力を併せもつ「美容芸術」の体現者たる美容家を輩出する。 1)美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力 2)表現力、すなわち芸術における実践力	
教育目標			
高度な美容技術やデザイン力、表現力を身につけた、「美容芸術」の体現者たる美容家を育成する。			
専攻科のカリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー(DP)を達成するための「学習成果」 (DP達成のために ⇒ ◎＝特に重要な事項、○＝重要な事項、△＝望ましい事項)	
専攻科芸術専攻のカリキュラムは、「美容芸術」を体現する力を身につけるための3つの領域で構成する。 1)美容技術領域 「美容芸術」を実践する訓練として接客実習を取り入れながら、高度な技術を身につける。 2)芸術表現領域 自己の内面を形にする表現力を養い、他者のニーズを踏まえて表現するデザイン力を研鑽する。 3)美容芸術領域 美容と芸術を学習者の内部で融合させ、学習者それぞれの「美容芸術」を作り上げる。		1)美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力	2)表現力、すなわち芸術における実践力
カリキュラム			
授業科目名	授業の目標		
美術材料学	さまざまな画材の基本的な特性を理解し、実際に使うことによって表現力を高める。 また、西洋で生まれた銅版画技法のドライポイントとエングレービングを理解することによって、美術表現や知識の幅を広げる。	△	◎
日本・東洋美術史	・東アジアの文化、日本文化の枠組とその特徴を把握し、グローバリズムとローカリズムを考察。自らの言葉で語れるよう理解を深める。 ・美術作品を鑑賞し、制作背景や材質・技法についての知識を身につけます。また、文房四宝など、作品を取り巻く様々な要素を多角的な視座から研究。実際に道具に触れて、作品づくりを体感します。	△	○
西洋美術史	人にとって美とは何かを西洋文化を通して考えます。 感性的な分野なので理論に偏らないように、美の意識を養う。	△	○
商品開発研究	シャンプー剤の制作をすることにより、洗浄成分、保湿成分等数々の成分を調べ、分析することで、幅広い知識を学ぶ。 また、販売まで視野に入れることで、パッケージデザイン、流通価格の相場などや商品化されるまでの経過を体験することができる。	△	△
平面造形演習Ⅰ	物の形やバランス、量感、質感などを客観的に正しく把握すると同時に、画面全体と部分との関係、画面構成などを考える力を養う。 また、様々な描写法により画面を作り上げることが出来るようになる。	—	◎
平面造形演習Ⅱ	油絵具やアクリル絵具の特性を良く知り、使いこなせる技術を身につけます。 特に色や明暗の出し方を修練し、表現の世界を深く豊かなものにします。 また、完成度の高い作品を作り上げる精神力を養います。	—	◎
立体造形演習Ⅰ	課題の制作をすることで、立体造形の基本を習得する。 形体・素材・色彩・質感の互いの関連性や影響力等の重要性を学びながら、平面と立体の空間の仕組みや違いについて理解を深める。 表現力・創造性・計画性・色彩感覚を養い柔軟な思考の育成を目指しながら、造形制作の楽しさや喜びを体験し、各自の特性を生かした美容作品に応用できる能力を高める。 また、学士(芸術学)取得のための基本的な技術を身につける。	—	◎
立体造形演習Ⅱ	立体造形と平面の仕組みや違いを理解し、多種多様な造形素材の特性を学び美容にも応用できる能力をさらに深める。 より高度な素材の加工技術、色彩感覚、表現力、創造性、美的直感力等をを養い、広い視野と柔軟な思考の育成をめざす。	—	◎
デザイン演習Ⅰ	作品制作により、デザイン行為の理解と目標に到達する力を養う。 又、基礎デザインの演習をくりかえし応用力を身につける。	—	◎
デザイン演習Ⅱ	作品制作により、デザイン行為の理解と目標を到達する力を養う デザイン領域に於いて自らテーマを提示し、表現できるようになる。	—	◎
CG演習Ⅰ	1)基本デザインアプリケーションが使えるようになる。 2)デザインを理解し、よりよいデザインについて考察できるようにする。 3)自分の表現に役立つようなCGの使い方を身につける。	—	○
CG演習Ⅱ	1)目的に応じたデザインをすることができる。 2)各種メディアの表現を探索し、デザインへの理解を深めます。	—	○
美容デザイン演習	自己の思想とコンセプトのもとに、問題を発見し、最善の解決法を探りながら、独自のデザイン表現で、新しい美を社会提案できるようになる。	◎	◎

美容芸術研究	30号以上(立体)「美容」を含めた作品を制作するが、その他グループ展を行うことを前提に、DM、ポスターも作成する。	◎	◎
色彩研究	色相、明度、彩度、トーンといった色彩の基礎を十分に理解した上で、カラーシステムや配色計画について詳しく研究する。また、様々なテーマからイメージを膨らませ色彩構成することによって、色彩計画の幅を広げ、感性を豊かにするとともに、より実践的なパーソナルカラーの能力を身につける。	—	◎
スタイルドローイング	美容の観点から人物を観察し、平面作品に置き換え、美容とは何かを絵画を通して考える	◎	◎
写真表現演習	撮る側、撮られる側を経験し視点(ものの見方)に気づく。 作品をたくさん作り、ポートフォリオ制作で就職活動等に役に立てよう。 一眼レフカメラの操作、ライティング技術を身につける。 綺麗なビューティ写真を撮れるようになる。	△	○
ネイルアート研究	本科目を履修することにより、全身美容の一つとしてネイル技術は欠かすことの出来ない技術であるということを理解する。指先の健康を守るという基本概念をしっかりと理解し、ネイルの基礎知識や材料学、話題の最新ネイル技術までをバランス良く習得する。また、ネイルアートの構図や美的効果など実体験を通じて研究する。	○	○
ファッション情報研究	1.ファッション情報研究を通して、広い視野と人間性、専門性を養成する。 2.キャリア設計をする際に、自主的に判断し実践できるようになる。	—	△
サロン実習Ⅰ	サロンワークのうち、シャンプー・マッサージ・ブローイング・ヘアカラー塗布までの技術を確実に習得する。	◎	—
サロン実習Ⅱ	サロン実習Ⅰで学んだ技術をより確実にする。 シャンプーからスタイリングまでの一連の流れを学び、現場でトップアシスタントとして動ける技術・知識を身につける。	◎	—
サロン実習Ⅲ	実習を通して、接客に必要なコミュニケーション力を養い、シャンプーからスタイリングまでの一連の流れをより深く学び、技術を確実にする。	◎	—
サロン実習Ⅳ	初級技術者としての実務レベルに準じたスキルを身につける。	◎	—
ヘアテクニックⅠ	人間の美的造形に影響を及ぼすヘアカラーとセットテクニックについて、色彩と毛髪の関係、ヘアカラーのテクニカルスキル、セットテクニックを習得し、将来美容業界で活躍可能な基礎内容を習得する。	◎	—
ヘアテクニックⅡ	美容師(技術者)として成長していくプロセスの中で、本実習では、サロン技術の応用(実務)分野においてテクニカルだけにとどまらず、美容という観点から創造性や芸術性に至るまでの技術を習得する。	◎	—
ヘアデザインⅠ	美容に関する基礎理論・知識を再認識し、応用技術を効率的に習得する。	◎	—
ヘアデザインⅡ	展示会出品可能レベルまでの作品制作。	◎	—
メイクアップ研究	・目指すイメージを具体的にメイクアップで表現出来るようになる。 ・ステージメイクアップ、化粧品会社の専門家による講演で知識を深める。 ・使用した化粧品を紹介し、販売するテクニックを身につける。	◎	△
批評概論	広告や絵画作品などを踏み台に自由に意見交換をし、他者に伝える能力を養うことを目標とします。 また、発言力と同時にそれを客観的に考える力も身につけます。	△	△
描画技法	物体や人体の形を、先入観にとらわれることなく客観的にとらえ表現する力を高めるとともに、常に全体を意識しながら部分とのプロポーションを見る力を身につける。 デッサン力を高めることで、頭の中のイメージを表現する力も身につける。	△	◎
修了研究(前期)	学位にふさわしい成果でなくてはならないことを常に意識する。漫然と制作・執筆するのではなく、起案から、企画、研究計画の立案を経て、制作・執筆に入る。 制作・執筆中もその過程を記録することが大切。	—	◎
修了研究(後期)	学位にふさわしい成果でなくてはならないことを常に意識する。漫然と制作・執筆するのではなく、起案から、企画、研究計画の立案を経て、制作・執筆に入る。 制作・執筆中もその過程を記録することが大切です。	—	◎

英語演習	The aim of this course is to prepare students to use English to express their ideas and thoughts on fashion, art and design.	—	—
美容福祉演習	個別のニーズに応えるために必要な形態別美容技術、美容福祉道具の選定、資源の活用、衛生面の管理、他職種との連携方法などに必要なスキルや、安心、安全を確保するために求められる観察力や洞察力を深め、問題を発見、分析、決定、評価する力を得る。実践を重ねることで技術を磨き、オールラウンドの美容師・福祉美容師を目指す力を養います。	○	—
インターンシップA	企業等での現場体験を通して社会を知り、社会人として必要な知識や技術を学びます。 ホスピタリティやコミュニケーション能力を高めます。	△	—
インターンシップB	企業等での現場体験を通して社会を知り、社会人として必要な知識や技術を学びます。 ホスピタリティやコミュニケーション能力を高めます。	△	—